

## 2019 世界防災フォーラムにおいて「The Disaster Riskscape Across Asia-Pacific: Asia-Pacific Disaster Report 2019 (ESCAP)」を開催しました（2019/11/12）

テーマ: ESCAP, Disaster Riskscape, Asia-Pacific, Disaster report  
場所: 仙台国際センター(橋)

仙台国際センターで 11 月 9 日（土）から 12 日（火）まで開催された「第 2 回世界防災フォーラム」において、11 月 12 日（月）、国連アジア太平洋経済社会委員会（UNESCAP）の企画セッション「The Disaster Riskscape Across Asia-Pacific: Asia-Pacific Disaster Report 2019」が開催されました。このセッションでは、UNESCAP が 2019 年に発刊した「Asia Pacific Disaster Report 2019」の紹介もかね、レポート内容の講演と、アジア・太平洋地域で災害と貧困層の研究を行う研究者による事例紹介が行われました。

災害科学国際研究所からは、井内加奈子准教授（人間・社会対応研究部門）が登壇し、「Can risk informed land use plan help the poor?」のタイトルで、減災を意識した土地利用がどのように貧困層の生活に影響を与えているのかについて、フィリピンの沿岸部のコミュニティを対象に紹介しました。ハザードリスクの低減を図ることにより、社会・経済リスクがあがってしまうバランスについても説明しました。

登壇者 5 名の講演後、パネル形式でディスカッションが行われ、参加者からも多くの質問があり、活発な議論が行われました。質問の一部は、以下のとおりです。

- 災害に脆弱な人口の研究への参加をどのように確保するか？
- 研究倫理はどのように確保すればよいのか？、他



土地利用と貧困層について講演する  
井内准教授



パネルディスカッションの様子

文責：井内加奈子（人間・社会対応研究部門）